人の光を観るのが観光ならば、
舞台を観るのは最高の観光だ！

THU 6 - SUN 23 SEPTEMBER 2018
AT BIRD THEATRE AND OTHER VENUES IN SHIKANO,TOTTORI
BIRD THEATRE
1812-1 SHIKANO SHIKANO-CHO TOTTORI-CITY TOTTORI-PREFECTURE
TEL 0857-84-3612
WWW.BIRDTHEATRE.ORG/ENGEKISAI/

"BIRD" THEATRE FESTIVAL TOTTORI 11

鳥の演劇祭11

2018年9月6日(木)〜9月23日(日)

鳥の劇場と鹿野町内各所(鳥取県鳥取市鹿野町)

「鳥の演劇祭」問合せ窓口(鳥の劇場内) 〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1
電話:0857-84-3612　電子メール:engekisai@birdtheatre.org　ウェブサイト:www.birdtheatre.org/engekisai/

> 芸術が人間と自然とを結合するのは周知の事実であるが、
> 芸術はまたすべての人間が
> 起源と運命を共にするものであることに気づかせてくれる。
>
> (ジョン・デューイ　アメリカの思想家　1859-1952)

国内外から集まる舞台芸術の力と、地域の人や歴史や場の力が組み合わさって、ここにしかない盛り上がりをつくる鳥の演劇祭。11回目となる今年も三週末を中心に、鳥取市鹿野町内のいろいろな場所で、演劇を中心に、楽しかったり、おもしろかったり、おいしかったり、感動したりの多彩な「出会い」をお届けします。

今回は、上演場所として二会場を新たに加え、さらに城下町エリアに演劇祭公式の食や展示の空間を設けます。国内外の優れた作品の提供と合わせて、地域の人や資源とのつながりを広げ、楽しみながら人やコミュニティについて考え、未来を想う、ここだけの祝祭の場をつくります。ぜひお越しください。

(フェスティバルディレクター　中島諒人)

演劇祭11 今年の注目ポイント

国内外の優れた舞台が集結
韓国、香港、イギリス、アメリカからも

演劇といろんな人の出会いを
障がいのある人、子ども、お年寄りが舞台で輝く

新しい会場が2つ
くるびや、勝谷体育館を劇場に
上演会場はなんと5ケ所

演劇×子どもラボの開催
演劇の力を、子どもの成長につなぐ方法の提案、実践

各公演会場をつなぐ循環バス
最寄りのJR浜村駅、それから各会場間をバスがつなぐ

城下町エリアをもっと盛り上げ
演劇祭直営のテーマハウス、お店、カフェなど多数出店

最終週は地元の「わったいな祭」と併催
毎年10月開催の地元恒例の祭が演劇祭とのコラボのために9月に引っ越してんこ盛りの週末で、演劇祭を締めくくり

6[木]										19:00『剣を鍛える話』→鳥の劇場[劇場]	
7[金]	10:00 産み育てを考えるワークショップ →くるびや劇場			☕…開演1時間前出張カフェあり						19:00『剣を鍛える話』→鳥の劇場[劇場]	
8[土]	10:00 産み育てを考えるワークショップ →くるびや劇場	11:00 鹿野ぶらぶら町歩き →鹿野町内		☕13:00 アジア・ダンスの芽 →勝谷体育館			16:00『第四の壁』→鹿野往来交流館「童里夢」		18:00『剣を鍛える話』→鳥の劇場[劇場]		20:00 オープニング・パーティー&お年寄りダンス →鳥の劇場[ホワイエ]
9[日]	10:00 産み育てを考えるワークショップ →くるびや劇場	10:30 シンポジウム session1 →鳥の劇場[ホワイエ]		☕13:00 アジア・ダンスの芽 →勝谷体育館			16:00『第四の壁』→鹿野往来交流館「童里夢」		18:00『剣を鍛える話』→鳥の劇場[劇場]		
10[月]											
11[火]											
12[水]											
13[木]											
14[金]	10:00 産み育てを考えるワークショップ →くるびや劇場										
15[土]	10:00 産み育てを考えるワークショップ →くるびや劇場	11:00 鹿野ぶらぶら町歩き →鹿野町内		☕13:00『極東ラブストーリー』→議場劇場			16:00『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの-2018』→鹿野往来交流館「童里夢」		18:00 シンポジウム session2 →鳥の劇場[ホワイエ] ナイトイベント →鳥の劇場など		20:00『小さいサーカス"KNOT"−きずな』→鳥の劇場[劇場]
16[日]	10:00 産み育てを考えるワークショップ →くるびや劇場	11:00 鹿野ぶらぶら町歩き →鹿野町内		☕13:00『極東ラブストーリー』→議場劇場			16:00『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの-2018』→鹿野往来交流館「童里夢」 『おじいちゃんのちいさなひみつ』→勝谷体育館		18:00『小さいサーカス"KNOT"−きずな』→鳥の劇場[劇場] ナイトイベント →鳥の劇場など		
17[月・祝]	「子どものいちにち。」 10:00 産み育てを考えるワークショップ →くるびや劇場	11:00『どろぼうがっこう』→鳥の劇場[劇場]		13:00 お年寄りによる演劇 →鹿野往来交流館「童里夢」 ☕『おじいちゃんのちいさなひみつ』→勝谷体育館		15:00 公開! 小鳥の学校 →くるびや劇場					
18[火]											
19[水]											
20[木]											
21[金]	8:30»20:00 わったいな祭(作品展示)										
22[土]	おやこ演劇ミーティング		12:30『三びきやぎのがらがらどん』→くるびや劇場	☕13:00『お客さんたち』→勝谷体育館 13:00『舌切り雀』→くるびや劇場	14:30『子ゾウのボボンとお月さま』→くるびや劇場		16:00『主なき土地』→鹿野往来交流館「童里夢」 16:00『妖怪ショー』→議場劇場		18:00『THE RELIGION OF BIRDS-鳥の仏教-』→鳥の劇場[劇場]		20:00 プレゼン/意見交換会 →くるびや劇場
	10:00»16:00 わったいな祭(作品展示・舞台発表・鹿野ええもん市など各種催し物)										
23[日]	おやこ演劇ミーティング		12:30『三びきやぎのがらがらどん』→くるびや劇場	☕13:00『お客さんたち』→勝谷体育館 13:00『舌切り雀』→くるびや劇場	14:30『子ゾウのボボンとお月さま』→くるびや劇場		16:00『主なき土地』→鹿野往来交流館「童里夢」 16:00『妖怪ショー』→議場劇場		18:00『THE RELIGION OF BIRDS-鳥の仏教-』→鳥の劇場[劇場]		20:00 クロージング・パーティー →鳥の劇場[ホワイエ]
	10:00»16:00 わったいな祭(作品展示・舞台発表・鹿野ええもん市など各種催し物)										

チケット・予約 (※料金は中面のプログラム紹介をご覧ください。)

各種プログラムの予約・申込受付は8月1日(水)10時より開始します。
右記、予約窓口までご連絡ください。

日時指定あり・全て自由席

上記、予約窓口にて前日までにご予約ください。予約順に入場整理番号をお取りします。
会場内へは入場整理番号の順にご案内します。料金は、公演当日、各会場受付でお支払いください。
(ご予約の際には、入場料が無料のお子様の人数もお知らせください。)
※当日券は開演の1時間前から各公演会場の受付にて販売します。
※未就学のお子さまのご入場はお断りすることもございます。託児も行っております。下記をご参照ください。

「鳥の演劇祭」予約窓口
〈電話〉
(0857)84-3268(鳥の劇場)
〈ウェブ〉
www.birdtheatre.org/engekisai/
〈電子メール〉
ticket@birdtheatre.org

託児します(無料、要予約)

各上演プログラムに合わせて、
鳥の劇場の子どもルームで託児を行います。
※託児士手配の都合上、必ず3日前までにご予約ください。

バリアフリーをめざします

障がいのある方にもご覧いただけるよう、随時対応いたします。
■台詞が聞こえづらい方のために、手元に持てる小さい"字幕"を用意しています。※全上演ではありません。
■車いすの方など入場時に配慮が必要な方を対象に、優先入場を行なっています。

En English Subtitles available

En マークのついた上演では、セリフの英語訳を自動的に表示するiPodをご用意しています。

En Programmes marked with EN are available with English subtitles which automatically appear on the iPod screen.

会場へのアクセス

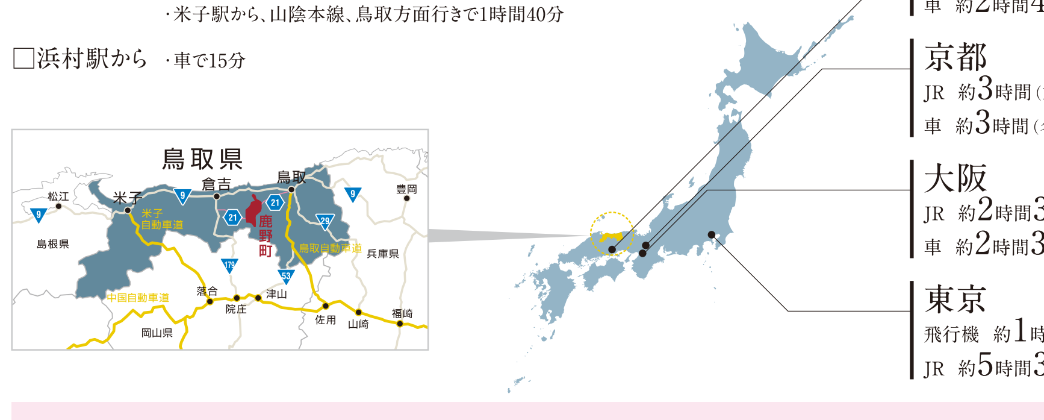
■JRを使って
最寄り駅はJR浜村駅です。
※演劇祭期間中の土日祝日は、浜村駅と各会場の間を無料の循環バスが運行します。
浜村駅から乗車される方はご予約ください。

□浜村駅まで
- 鳥取駅から、山陰本線、米子方面行きで30分
- 倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行きで25分
- 米子駅から、山陰本線、鳥取方面行きで1時間40分

□浜村駅から
- 車で15分

■車を使って
公演日は会場近くに案内看板を設置します。
- 鳥取自動車道、鳥取西ICから約30分
- 鳥取空港から約30分
- 鳥取市中心部から約40分
- 倉吉市中心部から約50分
- 米子市中心部から約1時間30分

東京・大阪・神戸・京都・広島・福岡の各都市と鳥取の間で高速バスが運行しています。



岡山
JR　約2時間(岡山駅−鳥取駅)
車　約2時間45分(国道53号−鳥取自動車道)

京都
JR　約3時間(京都駅−鳥取駅)
車　約3時間(名神高速道路−中国自動車道−鳥取自動車道)

大阪
JR　約2時間30分(新大阪駅−鳥取駅)
車　約2時間30分(名神高速道路−中国自動車道−鳥取自動車道)

東京
飛行機　約1時間15分(羽田空港−鳥取空港)
JR　約5時間30分(東京駅−鳥取駅)

■タクシーのご利用もオススメです!

もっと欲張りたい方は鳥取の観光も!

1　定額運賃5,400円で鳥取駅北口と鳥の劇場間をつなぎます。(所要時間約30分)
鳥の劇場に向かう場合は、鳥取駅北口のタクシー乗り場から直接ご利用いただけます。念のため「定額で」と一言お声がけください。

2　鳥の劇場を訪れる前後で観光も!
30分ごとに2,780円の時間貸し切りで鳥取県東部を中心としたお好きな観光地を巡ることもできます。詳しくは下記タクシー会社にお問い合わせください。

旭タクシー　0857-28-0081／大森タクシー　0857-23-6511／観光タクシー　0857-21-1234／サービスタクシー　0857-22-2011／東部タクシー　0857-28-3232／
鳥取自動車　0857-26-6111／日本交通　0857-26-6111／日ノ丸ハイヤー　0857-22-2121／毎日タクシー　0857-22-8288　(五十音順)

Just 2,000yen/person for 3 hour taxi tourism
For foreigners or tourists groups including foreigners (外国人旅行者か、外国人旅行者を含むグループが対象)
[WEB] http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1374222847656/
Go to Tottori Station and visit《International tourists Support Center》, and just demand for 2,000 yen taxi!
(鳥取駅構内の「国際観光客サポートセンター」もしくは最寄りのタクシードライバーまでお問い合わせください。)

演劇祭をもっと楽しんでいただくために

鹿野を楽しもう

鹿野ぶらぶら町歩き →鹿野町内

鹿野は400年の歴史がある城下町。今も情緒ただよう落ちついた町並みが残ります。一人で歩くのもいいのですが、地元のガイドの方の案内を聞きながらの散策は、また別の発見や喜びがあります。

9月8日(土)・15日(土)・16日(日)11:00〜12:00

料金:無料　集合場所:鳥の劇場玄関前　協力:ぷらっとしかのガイドの会

夜まで楽しもう

ナイトイベント →鳥の劇場 →光輪寺 地図 1

鳥の演劇祭を、鹿野を、もっと楽しんでもらうために、去年初めて実施したナイトイベント。「次の日が休みの日がいいよね」ということで、今年は9/15(土)、9/16(日)の夜としました。星空を見ながら星座の説明を聞いたり、盆踊りをしたり、映像を観たり、お寺で怪談を聞いたり。大人の方には地ビールもあります。近くには鹿野温泉、テントの貸し出しもあり、雨天時に備えて近くの公民館も押さえてあります。翌日は演劇祭を楽しんでもらうもよし、別の観光地を目指してもらうもよし。鳥取の方にも県外の方にも、特にご家族連れにはオススメです。

9月15日(土)・16日(日)18:00〜

■屋台村(両日とも18:00〜)
鳥の劇場の中庭に屋台が登場。鹿野で醸造された地ビールやおいしいおつまみなどが楽しめます。15日限定で「出張日本酒バー」も。
協力:アカリ・ブリューイング　あかり本願衆　酒うらら

■怪談ばなし(両日とも18:30〜19:30)
鳥の劇場のすぐ近くの光輪寺本堂で、鹿野に伝わる怪談を聞きます。お寺で聞く怖い話は格別です。
協力:光輪寺　とっとり・民話を語る会

■星空観察(16日のみ19:30〜21:30)
星座の解説を聞きながら、鹿野の夜空を観察します。
※雨天曇天時は屋内で映像を使った星空レクチャーに切り替えます。
協力:鳥取天文協会

■盆踊り(16日のみ20:00〜21:30)
校庭に組んだやぐらを囲んで、盆踊りを楽しみます。鹿野音頭ほか何曲かを生演奏で。

■8ミリ映像上映
およそ40年前の「鹿野まつり」の様子を収めた貴重な映像を上映します。
協力:いんしゅう鹿野まちづくり協議会　鹿野名画座　HOSPITALE

■テント宿泊
校庭に設置しているテントに宿泊できます。(要申込)※数に限りがあります。寝袋などは各自ご用意ください。

いろんな人と交流しよう

パーティー →鳥の劇場[ホワイエ]

演劇祭の大きな目玉のひとつ。国内外から集う俳優、ダンサー、スタッフや、地元の方々、お客さん、鳥の劇場の俳優・スタッフも、みんな一緒になって、食べたり飲んだり、出し物をしたり。今年はお年寄りによるダンスの発表や盆踊りもあり、例年以上に盛り上がるはずです。

■オープニング・パーティー
9月8日(土)20:00〜21:00

■クロージング・パーティー
9月23日(日)20:00〜21:00

料金:1,000円(ドリンク・軽食付き)

地元感を味わおう

鹿野わったいな祭 →鹿野町内各所 地図 2 3

演劇祭と地域の連携として、毎年秋に開催されている「鹿野わったいな祭」が今年は鳥の演劇祭三週目と重ねて開催されることになりました。「わったいな」とは、「おどろいた!」「すごい!」という意味の鳥取東部の方言。作品発表やステージ発表のほか、地元のおいしい食べ物などが並ぶ「鹿野ええもん市」、鹿野そばの早食い選手権、毎年夏に町中に咲き誇るはすの種を使ったお楽しみイベントなど、盛りだくさんです。演劇祭とともに、お楽しみください。

9月21日(金)8:30〜20:00
22日(土)10:00〜16:00
23日(日)10:00〜16:00

ランチはここで決まり

鳥のカフェ

鳥のカフェのボランティア募集
9:30〜14:00にお手伝いいただけるカフェボランティア大募集!!

お芝居と一緒においしい食べ物・飲み物をお楽しみください。今年も、鳥取市のカフェ文化の発信拠点café-neeにご協力いただき、鳥取の旬の食材を使ったメニューをご提供します。劇場でランチが食べられるのは、演劇祭期間中だけ! カフェだけの利用ももちろんOKです。

営業日時:公演のあるすべての日
11:00〜公演終了時
(6日と7日は開演の1時間前からの営業のみ)
好評につき完売の場合は、販売を終了させていただくこともあります。人気の日替わりセットなどはどうぞお早めに!

〈販売メニュー〉

鳥のカフェ日替わりセット	¥850
トマトカレー(デリ付き)	¥850
TREESBREADサンドイッチ	¥500
各種スイーツ	¥200〜
ソフトドリンク、コーヒーなど	

☕ 勝谷体育館・議場劇場では、13:00からの上演のある回に限り、移動カフェがオープンします。上演の1時間くらい前からの開店です。(軽食・飲み物をご用意いたしております。)

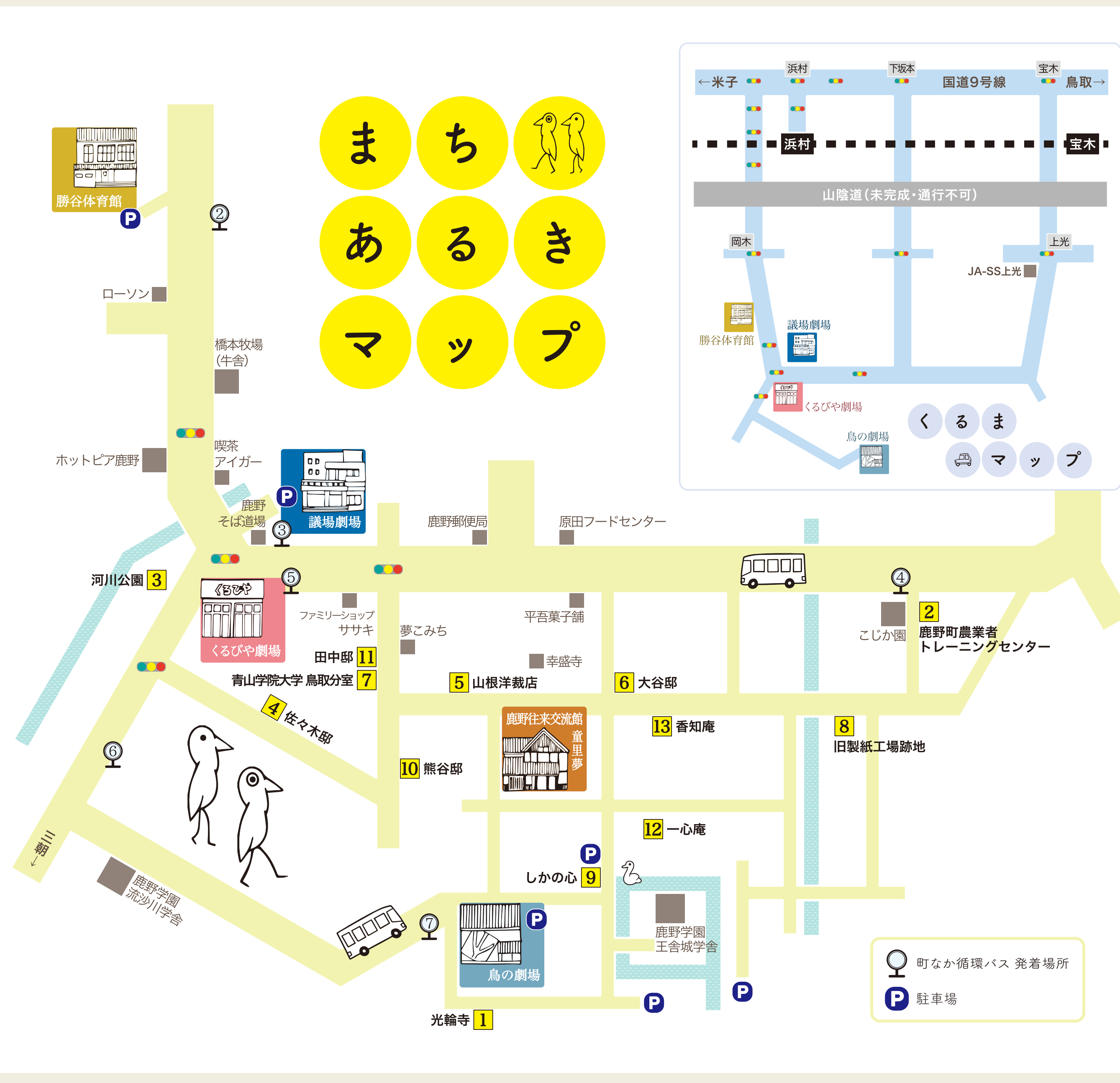
くるびや劇場にもカフェが併設されます。くるびやは、何年か前までスーパーだった場所。少し手を加えて劇場にしました。くるびや劇場のテーマは、「演劇×子どもラボ」。ワークショップや上演の合間に、ご家族で、おいしいスイーツやドリンクをどうぞ!

おみやげならここ

鳥の演劇祭セレクトショップ

毎年大好評の期間限定スペシャルショップが、今年もオープンします。俳優・齊藤頼陽おすすめの鳥取の工芸品や食べ物、アートワーク、鳥グッズが所せましと大集合! 鳥取県民なら誰もが知っているものから、なかなか目にすることのない逸品まで、幅広い品揃えでお待ちしております。お芝居を観ない人も大歓迎です。カフェと合わせて是非ご利用ください。

場所:鳥の劇場内　営業日時:公演のあるすべての日



ぜひ立ち寄りたい

週末だけのまちのみせ 7th

劇場周辺の城下町地域は、落ち着いた町並みで散策にも最適です。そのエリアの空き家や空き店舗を利用して、週末だけのお店がオープン。飲食店や手作り雑貨店、パフォーマンスなどが日替わり・週替わりで登場。今年は演劇祭との連携をさらに強めるべく、演劇祭オフィシャルの新企画をたくさん用意しました。

9月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)・17日(月・祝)・22日(土)・23日(日)

鳥の劇場の人気演目にちなんだテーマハウスが出現

公演で実際に使った小道具や衣装などを、写真や映像と一緒に展示。手に取ったり、写真を撮ったりもできます。さらに「毒りんごケーキ」や「貧乏具なし?カレー」など、作品にちなんだちょっとあやしい食べ物もご提供予定。何が出るのかお楽しみ!!

- ●白雪姫ハウス　場所:佐々木邸　地図 4
- ●老貴婦人ハウス　場所:山根洋裁店　地図 5
- ●すてきな三人ぐみハウス　場所:大谷邸　地図 6

スイーツあるよ
カレーあるよ

数量限定の定食あるよ

◆イワン食堂
今年からオープンした青山学院大学鳥取分室が、演劇祭の期間中、「イワンのばか」をモチーフにした食堂になります。地元の旬の食材に目を向ける「イワン食堂」は今年春の公演に合わせて初開催し、たいへん好評をいただきました。今回は、大ぶりな鹿野産のヤマメの塩焼きをメインに、気高の麹漬けや猪肉の根菜汁など地元の食材をたっぷり使った定食をご提供します。

場所:青山学院大学鳥取分室　地図 7

◆山陰三ッ星マーケット
場所は、水谷川沿いの旧製紙工場跡地。去年の鹿野タイムスリップツアーの1シーンに使われたので、おぼえておられる方もいらっしゃるかもしれません。普段は空き地のこの場所が、開放的なオープンカフェに変わります。飲食、ワークショップ、リラクゼーションなど、さまざまなジャンルの山陰各地の三ツ星なお店が集結します。
場所:旧製紙工場跡地　地図 8
※9月15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)　4日間のみの出店
※雨天中止

◆みんなでGO! 合作5・7・GO!
俳句でも川柳でもなく、ひとりでなくみんなで楽しむことばのあそび。他の人の作った上の句や中の句を受けながら、言葉をつないで新しい世界を作ってしまうゲーム感覚の詩作です。

9月8日(土)・9日(日)	場所:しかの心	地図 9
9月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝)	場所:熊谷邸	地図 10
9月22日(土)	場所:田中邸	地図 11

時間:14:30〜15:45　参加費:200円

◆小鳥の家族　〜写真と因州和紙のお店〜
鳥取県八頭町出身、横浜在住の写真家・水本俊也さんが取り組むプロジェクト「小鳥の家族」。写真を鳥取特産の因州和紙にプリントした作品を展示します。
場所:一心庵　地図 12

◆とっとり河原町西郷地区・青谷の文化展
今なお豊かな手仕事の文化が息づく鳥取。青谷町の因州和紙や石工・川六の作品写真の展示、工芸の郷づくりを進めている河原町西郷地区の取り組みや工芸家の作品などを紹介します。
場所:香知庵　地図 13

循環バスを運行します

演劇祭期間中の土日祝日、JR浜村駅や各会場間を循環するバスを運行します。停車するのは、JR浜村駅、勝谷体育館、議場劇場、鹿野町農業者トレーニングセンター、くるびや劇場、大工町、鳥の劇場。くわしくは上の地図をご参照ください。浜村駅から乗車される方は、ご予約ください。その他のルートは予約不要です。

浜村駅発 鳥の演劇祭会場行き/町なか循環バス　時刻表

運行日							浜村駅 列車着		①浜村駅発	②勝谷体育館	③議場劇場	④トレセン	⑤くるびや	⑥大工町	⑦鳥の劇場着
8	9	15	16	17	22	23	鳥取から	倉吉から							
全日							1001	0953	1006		1021	1025	1029	1031	1034
全日												1048	1052	1054	1057
全日							1142	1118	1145		1200	1204	1208	1210	1213
8	9			17	22	23	1233	1235	1243	1253	1258	1302	1306	1308	1311
		15	16				1233	1235	1240		1255	1259	1303	1305	1308
全日												1325	1329	1331	1334
8	9				22	23	1426	1414	1430	1440	1445	1449			1455
		15	16				1426	1414	1430		1445	1449			1455
				17			1426	1414	1430	1440		1447	1451		1455
8	9	15		17			1526	1444	1530						1545
			16				1526	1444	1530	1540					1549
					22	23	1526	1444	1530		1545				1549
全日												1559	1603	1605	1608
全日												1619	1623	1625	1628
全日												1639	1643	1645	1648
8	9	15			22	23	1718	1723	1726		1741	1745	1749	1751	1754
			16				1718	1723	1726	1736	1741	1745	1749	1751	1754
				17			1718	1723	1726						1741
8	9	15	16			23	1825	1833	1838						1853
					22		1825	1833	1838		1853	1857	1901		1906
8		15	16			23	1900		1908	1918	1923	1927	1931		1936
8		15	16		22	23	2009	2001	2014						2029
8		15	16			23	2051	2111	2116						2131

鳥の劇場発 浜村駅行き/町なか循環バス　時刻表

運行日							⑦鳥の劇場発	③議場劇場	④トレセン	⑤くるびや	②勝谷体育館	①浜村駅着	浜村駅 列車発	
8	9	15	16	17	22	23							鳥取へ	倉吉へ
全日							1039	1044	1048					
全日							1125					1140	1214	1143
8	9			17	22	23	1214	1219	1223	1227	1232	1242	1306	
		15	16				1214	1219				1234	1306	1240
全日							1316	1321	1325					
全日							1355	1400	1404	1408		1423	1445	1428
8	9		16	17	22	23	1455	1500	1504	1508	1513	1523	1548	1527
		15					1455	1500	1504	1508		1523	1548	1527
全日							1550	1555	1559					
全日							1610	1615	1619					
全日							1630	1635	1639					
全日							1652	1657	1701	1705		1720	1725	1724
全日							1802	1807	1811	1815		1830	1834	1834
8		15	16			23	1853					1908	1915	1935
8	9	15	16		22	23	1940					1955	2002	2010
8			16			23	2038	2043	2047	2051	2056	2106	2111	2135
		15					2051					2106	2111	2135
8		15	16		22	23	2145	2150	2154	2158	2203	2213	2234	2234

今回はお試し運行にて、無料でお乗りいただけます!
たくさんご利用ください。

宿泊情報

■城下町のお宿
しかの宿　本田中家　0857-84-1188　shikanoyado.com

■鹿野温泉
山紫苑　0857-84-2211　www.sanshien.jp
お宿夢彦　0857-84-2411　www.yumehiko.co.jp
0120-610417

■浜村温泉
旅風庵　0857-82-0531　www.ryofuan.com
浜村温泉 魚と屋　0857-82-2400　www.oyado-totoya.jp/hamamura

■吉岡温泉
吉岡温泉旅館組合　0857-57-0800　www.yoshiokaonsen.com

■鳥取駅前・市街地
鳥取市観光案内所　0857-22-3318　www.torican.jp

■三朝温泉
三朝温泉旅館協同組合／三朝温泉観光協会
0858-43-0431　spa-misasa.jp

■東郷池そば
ゲストハウス「たみ」　0858-41-2026　www.tamitottori.com

鳥の演劇祭 ボランティアスタッフ大募集!

毎年、たくさんのボランティアスタッフのみなさんに、演劇祭の運営を支えていただいています。仕事は広報活動、会場の準備や受付、鳥のカフェのお手伝いなどです。さらに今年は、新企画として、鳥の劇場の人気演目をモチーフにしたテーマハウス&カフェをオープンします。小道具などで飾り付けたお店で、接客をしていただきます。こちらのスタッフも大募集です。

ボランティアを通じて、演劇祭を中から見ながらいっしょに盛り上げてください。募集は随時行っています。

- 活動期間:8月1日(水)〜9月25日(火)
  ご都合の良い時間帯だけでも。長期参加が可能な方大歓迎!!
- 応募資格:中学生以上(中高生については、保護者の承諾が必要です)
- 仕事内容:① 広報活動　② 会場準備・受付
  ③ カフェやテーマハウスの手伝い
- 応募方法:下の連絡先に、氏名・年齢・性別・電話番号・メールアドレス・ご希望の仕事内容(あればお書きください)をお知らせください。

「鳥の演劇祭」ボランティアスタッフ問合せ窓口(担当:國石)
電話番号　0857-84-3268
電子メール　volunteer@birdtheatre.org
※ご希望と、仕事内容を調整するために、面接を行う場合があります。

【主催】鳥の劇場運営委員会
【共催】鳥取県　鳥取市　特定非営利活動法人鳥の劇場
【協力】NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会　鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
【助成】平成30年度　文化庁　文化芸術創造拠点形成事業　鳥取県　鳥の劇場運営委員会補助金
【後援】鳥取県教育委員会　鳥取市教育委員会　駐大阪・神戸米国総領事館　新日本海新聞社
朝日新聞鳥取総局　山陰中央新報社　毎日新聞鳥取支局　読売新聞鳥取支局　産経新聞鳥取支局
日本経済新聞社鳥取支局　中国新聞鳥取支局　NHK鳥取放送局　日本海テレビ　BSS山陰放送
TSK山陰中央テレビ　共同通信社鳥取支局　時事通信社鳥取支局　日本海ケーブルネットワーク
FM鳥取・RADIO BIRD
【プログラム・ディレクター】　中島諒人(演出家／鳥の劇場芸術監督)

鳥の劇場運営委員会
会　長　長尾裕昭(鳥取市西商工会会長)
副会長　木谷清人(公益財団法人鳥取市文化財団理事長)
委　員　五島朋子(鳥取大学地域学部附属芸術文化センター教授)
山根大樹(Trees Co.,Ltd代表／Café SOURCE KOREA 代表理事)
中村彩(株式会社nido代表取締役社長)
中島諒人(特定非営利活動法人鳥の劇場代表理事)
監　事　荒金啓介(山陰合同銀行)

大人のための上演

[Performance for Adults]

鳥の劇場［鳥取］　➔鳥の劇場［劇場］

『剣を鍛える話』

BIRD Theatre Company TOTTORI
Forging the Swords En

演劇の力とは何か。作品によって焦点が変わるのですが、変わらない部分もあって、観る人の想像をどれだけ刺激できるか、観る人の体をどれだけワクワクさせられるかは、最重要のことでしょう。本作は、荒唐無稽な物語展開の中に、演劇の力がぎゅぎゅっと詰まっています。

9月6日(木)19:00・7日(金)19:00・8日(土)18:00・9日(日)18:00
料金：大人2,500円／18歳以下500円／小学生無料

原作：魯迅　構成・演出：中島諒人
出演：齊藤頼陽　中川玲奈　赤羽三郎　村上里美　高橋等　中垣直久　安田茉耶　後藤詩織　大川潤子　増谷京子

魯迅による原作「鋳剣」は、中国古代からの複数の物語に基づいており、旧体制への批判と、変革への強烈な決意が中国式ファンタジーの中に込められています。この演出では、物語が民衆の生活の中で語り継がれ、想像の中で膨らんでいった様子を外枠とし、その中で奇怪な物語がダイナミックに演じられます。

［物語］残虐な王に父を殺された16歳の少年・眉間尺。謎の黒い男と父の形見の青剣に導かれ、復讐のため王と対決する。しかしそれは大鍋の中、生首同士の決闘という実に奇妙なしつらえにおいてだった。眉間尺は懸命に戦うが劣勢、そこに黒い男が自分の首を落として加勢、ついに復讐は遂げられるが…。

魯迅
1881年−1936年　中国の文学者・思想家。日本に留学、帰国後、革命運動に参加したが、のちに学問に没頭。1918年、魯迅の筆名で「狂人日記」を発表。以後、『阿Q正伝』など多数の小説・雑感を発表。翻訳、文学史研究などにも大きな功績を残した。「剣を鍛える話」は、短編小説集「故事新編」の中の一作。

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）　独立行政法人日本芸術文化振興会

NIKKI & JD［イギリス］　➔鳥の劇場［劇場］

『小さいサーカス“KNOT”−きずな』

NIKKI & JD
KNOT Performed in English

鳥の演劇祭では、ヨーロッパ発の新しいサーカス作品を多く紹介しています。今年はイギリスの二人組です。ダンスとアクロバット、語りなどを組み合わせた美しくて、幻想的で、時に笑える世界。少しアダルトなところもありますが、直接的ではないので、おおらかにお楽しみください。

9月15日(土)20:00・16日(日)18:00　英語上演　日本語字幕
料金：大人2,500円／18歳以下500円／小学生無料

photo:Fabio Affuso

演出：ロザモンド・マルタン　ジャン=ダニエル・ブルーセ　ニッキー・ルマー　ドラマターグ：ベン・デューク
振付指導：エリス・サウル　マルタン・コリ　ムーブメント
指導：ピッパ・デューク　照明：ウィリアム・イングハム
出演：ジャン=ダニエル・ブルーセ　ニッキー・ルマー

二人のアクロバット・パフォーマーが出会って、恋に落ち、未来を夢見ますが、実は二人の結びつきを脅かす真実が隠されています。『KNOT』は、非常に現代的な問題を、息を呑むようなアクロバットとダンスで、感動的かつユーモラスにつづる物語。創作には、様々な賞を受賞してイギリスで大注目されている新進気鋭の振付家ベン・デューク（Lost Dog Dance Company主宰）がドラマターグとして参加。イギリス国内をはじめヨーロッパ各地で上演し、絶賛されています。

photo:Fabio Affuso

NIKKI & JD
サーカス・アクロバット「Hand to hand」と体操、カポエイラ、コンテンポラリーダンスを融合するアクロバット・デュオ。アクロバットとダンスと物語性に重点を置いている。ニッキーは体操競技からはじめて、国立サーカス・アート・センターで「Hand balancing」と「Hand to hand」を学び、ジャン=ダニエルは、国立サーカス・アート・センター卒業後、複数のサーカスカンパニーで活躍。

助成・協働：Jackson Lane　Déda　ジャーウッド振付研究プロジェクトII　国立サーカス・アート・センター　英国アーツカウンシル　ワーヴィック・アーツセンター
制作協力：Crying Out Loud

プロジェクト・ホワイル［韓国］　➔勝谷体育館

『お客さんたち』

Project While
The Visitors Performed in Korean En

2017年の韓国評論家協会「今年の演劇ベスト3」、韓国演劇協会「今年の演劇ベスト7」などに選ばれた、韓国でたいへん話題となった作品。韓国で現実に起こった悲劇を題材に、家族という普遍的主題を取り上げ、その意味や難しさを投げかけます。社会が変化し、コミュニティが変わりゆく中で、国を超えて突きつけられる課題です。

9月22日(土)・23日(日)13:00　韓国語上演　日本語字幕
料金：大人2,500円／18歳以下500円／小学生無料

作：コ・ヨノク　演出：キム・ジョン
出演：キム・ハラム　イム・ヨンジュン　イ・ジンギョン　パク・ジョンテ　ホン・ソンナク　キム・ウォンジョン　オ・ナミョン

photo:Taejoon Park

長く虐待された少年による両親のバラバラ殺人（2000年）と、母を殺した高校生が8ヶ月間遺体を家に置いたまま生活していた事件（2011年）が、この作品を作るきっかけになっています。

［物語］すでに両親は殺され、少年は両親の遺体と暮らしている。自分が客をうまくもてなせば両親を慰められると思い、少年は自宅に客を招く。客として訪れたのは、捨て猫、校門の影像、朽ちた墓の番人。全ての試みが失敗すると、明日も同じことが続くことを期待して、少年は再度両親を殺害する。

プロジェクト・ホワイル
多ジャンルのアーティストのコラボレーションによる新しい舞台言語の創作をめざし、俳優、演出家、作家、スタッフにより、2014年に設立。真実で強度の強い物語を上演し、演劇だけがつくりだせる濃密な瞬間を共有したいと考えている。

BATIK［東京］　➔鳥の劇場［劇場］

『THE RELIGION OF BIRDS −鳥の仏教−』

BATIK
THE RELIGION OF BIRDS

ダンスって言葉がないから自由にやれるように思えるのですが、意外とそれが難しい。どこかからの借り物になったり、よくあるイメージの反復になってしまったりすることが、ままあります。このカンパニーは、黒田さんを中心にした確かな技術としっかりした集団性をベースにして、踊る、イメージを作る、それを観客に届ける、ということを、意識的自覚的に遊んでいて、そこがとてもすばらしいのです。

9月22日(土)・23日(日)18:00
料金：大人2,500円／18歳以下500円／小学生無料

演出・振付：黒田育世　音楽：松本じろ　衣装：萩野緑
出演：伊佐千明　大江麻美子　大熊聡美　政岡由衣子　黒田育世（以上、BATIK）　今枝珠美

photo:Toshie Kusamoto

作品タイトル通りの本の中で、鳥の鳴き声を伴って言葉に体重がのしかかっている様、二羽の鳥だけ信仰からはぐれ顛末が語られない様が描かれていること。このことが私に強く突き刺さりました。踊りの作品にしたいと思いました。色んなことがどんどん変わっていく中、体から発される動きや言葉から体重が消されることが怖いです。そして、何の役にも立たないかもしれない踊りを続けていて、社会の歯車からはぐれている心持ちがあります。踊りが言葉を扱わなくていいと思うにも、踊りは役に立たなくていいと思うにも、私はそれらへの踊りの傷跡が足りません。そしてそれとは別に今私は祈る踊りをしなければ前に進めません。祈る踊りの両手の平に肉声と例外を握りしめたいです。（黒田育世）

photo:Tomohide Ikeya

黒田育世（BATIK主宰　振付家・ダンサー）
6歳よりクラシックバレエを始め、1997年渡英、コンテンポラリーダンスを学ぶ。2002年BATIKを設立。バレエテクニックを基礎に、身体を極限まで追いつめる過激でダイナミックな振付は、踊りが持つ本来的な衝動と結びつき、ジャンルを超えて支持されている。

協力：studio ARCHITANZ　アーティスト・サポート・プログラム　初演：2016「踊りに行くぜ!!」II（セカンド）vol.7

障がいのある人たちによる上演

[Performed by Disabled People]

障がいのある人の芸術活動が、美術分野を主にして盛んです。舞台芸術もさまざまな取り組みが国内外で展開されています。この二作品、まずは普通に舞台作品として観てみてください。それぞれに強烈な個性がありますが、ともに、生きることの意味を問いかける作品です、しかも楽しみながら。関連のシンポジウムも開催します。

TBTB［アメリカ］　➔鹿野往来交流館「童里夢」

『第四の壁』

Theatre Breaking Through Barriers (TBTB)
THE FOURTH WALL Performed in English

「障がい」というのは、体の不自由のことではなく、社会とその人が接する際に生まれる不具合のこと。「障がい」はどんな時代や社会にあっても共通のこともあるし、時代や社会に固有のこともあります。ニューヨークのオフブロードウェイで活躍しているこの劇団は、「障がい」についての我々の思い込みを笑いとともに揺らしてくれます。

9月8日(土)・9日(日)16:00　英語上演　日本語字幕
料金：大人2,500円／18歳以下500円／小学生無料

作：A.R.ガーニー　演出：クリストファー・バリス
出演：アン=マリー・モレリ　ステファン・ドラビキ　ニコラス・ヴィセリ　パメラ・サボー

『第四の壁』（1992年）の作者A.R.ガーニーは、昨年亡くなったアメリカの著名な劇作家で、アメリカの裕福な白人社会をとりあげた機知に富んだ辛辣なコメディで知られています。TBTBとも関係が深かったA.R.ガーニーの追悼として、今年6月のNYオフブロードウェイでの定期公演で上演されたばかりの最新作が登場します。出演者4名のうち3名が身体・視覚・聴覚に障がいをもっています。

［物語］ペギーは居間を改装するが、夫のロジャーはそれが耐えられない。なぜか舞台装置のようになってしまい、部屋に入ってくる者は、目に見えない「第四の壁」=観客に向かって舞台の上の役者のように演じたり歌い出したりしてしまう。

TBTB
障がいのある作家と俳優のための活動を40年近く続け、障がい者のイメージを依存から自立へ変容させることに大きく貢献しているアメリカの劇団。NYタイムズ紙「いい意味で予測を裏切る素晴らしいカンパニー」、ニューヨークポスト紙「単純に、米国で最も楽しめるカンパニーの一つ」など、NYオフブロードウェイで大変高い評価を得ている。鳥の演劇祭には、2014年と2017年に続き3回目の参加となる。

じゆう劇場［鳥取］　➔鹿野往来交流館「童里夢」

『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの−2018』

JIYU Gekijo-Freedom Theatre　*Things Born Out of “Romeo and Juliet”–2018* En

障がいのある人とない人がいっしょに舞台作品を作るじゆう劇場は、鳥の演劇祭の名物演目。毎年メンバーを募集し、よく出る人や戻ってきた人や新しい人が、素材を出し合って、不思議に柔らかい時間を作っています。支え合いながら共に生きるということの意味を、笑いとともに考えることのできる作品。今年は有料での公演に挑戦します。

9月15日(土)・16日(日)16:00　料金：大人1,000円／高校生以下無料

原作：W.シェイクスピア　構成・演出：中島諒人　齊藤頼陽　出演：じゆう劇場

じゆう劇場は、鳥の劇場のプロデュースのもと、2013年8月に活動を開始したプロジェクトで、今年で6年目を迎えました。今年は、知的、身体、視覚の障がいがある人など、総勢14名がステージに立ちます。シェイクスピアの有名な物語を、時にふざけて、時に大まじめに、時に過剰に逸脱して演じ、そこに出演者の個人的な恋愛体験や空想を重ねます。2017年のフランス・ナントでの上演の掛け値のない大好評を経て、また新たなメンバーで2018年新バージョンを作ります。

主催：鳥の劇場運営委員会　協力：鳥取県　助成：平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

大人も楽しめる子どものための上演

[Enjoyable Performance for both Adults and Kids]

「子どものためのお芝居だろ」などと軽く見てはいけません。シンプルな物語の中に、人としての大切なメッセージがこもっていたり、俳優の体や声のおもしろい遊びが楽しめたり。大人にとっては、子どもの笑い声の中で芝居を見られるのが、何より特別な贈り物ですよね。

劇団うりんこ［愛知］　➔勝谷体育館

『おじいちゃんのちいさなひみつ』

urinko theatre
Little Seacret Granpa En

子どもに演劇を通じて、何を、どのように手渡すのがいいか。何を選ぶかは任せたい。けれど先行世代として、できたら知っておいてほしいこともある。大人が大切だと思うこと。振り返って初めてわかる、そのもろさとはかなさ。それを想う目のやさしさ、そしてそれを拾う手のていねいさが、この作品の魅力です。

9月16日(日)16:00・17日(月・祝)13:00　料金：大人1,500円／18歳以下500円／小学生無料

企画・原案：劇団うりんこ　脚本・演出：バーント・フーグルンド　出演：原田邦英　ひろ〜み　小原ひろみ　柴田早苗

この作品は100人の60歳以上の方から、子どもの頃すごく嬉しかった思い出、すごく悲しかった思い出を集め、それをパズルのように組み合わせてつくりました。4人の役者が語り手にも演じ手にもなり、シューベルトの音楽と共に、男の子の心情を描きます。物語は日常の一コマ一コマ。友達と映画を見に行ったり、おたふく風邪になったりと。でもその中に喜び、不安、安らぎ、欲望、葛藤など繊細な心模様が描かれています。子どもも大人も、おじいちゃんの語る物語にきっと共感することでしょう。芝居を通して、世代を越えた心と心が生き生きとつながることを願っています。

バーント・フーグルンド
スウェーデンの劇作家・演出家・俳優。スウェーデンだけでなく北欧の多くの劇場やオペラハウスで作品を作り続けている。国際児童青少年舞台芸術協会アシテジにおいても国際的に活動。劇団うりんことの前作「ねむるまち」では、厚生労働省福祉文化賞を受賞。

鳥の劇場［鳥取］　➔鳥の劇場［劇場］

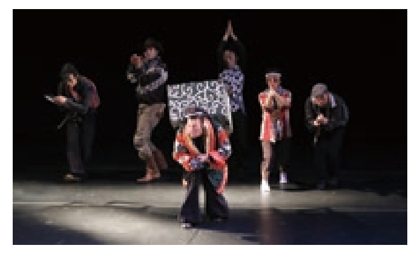
『どろぼうがっこう』

BIRD Theatre Company TOTTORI
School For Thieves En

9月17日(月・祝)11:00　料金：無料

原作：かこさとし　構成・演出：中島諒人　出演：鳥の劇場

今年お亡くなりになった、かこさとしさんによる同名絵本を原作にした舞台。大どろぼうのくまさか先生と、先生にあこがれて大どろぼうを目指す生徒たちが登場。子どもにも大人にも大好評の人気の演目です。超まじめにふざける、全力でずっこける、真剣にボケる俳優たちの姿が、世代を超えて大きな共感を呼んでいます。



子どものいちにち。それからお年寄りの発表も！

鳥の演劇祭の名物「子どものいちにち。」。子どもたち（もちろん大人も！）が楽しめるプログラムを集めました。鳥の劇場『どろぼうがっこう』、劇団うりんこ『おじいちゃんのちいさなひみつ』は、ともに親子で楽しめる舞台作品。また、鳥の劇場が年間を通して取り組んでいる演劇を通じた未来人材養成事業「小鳥の学校」の様子も公開します。そして、演劇に初めて挑戦してくれた年配のみなさんの発表もこの日に。

9月17日(月・祝)

11:00	『どろぼうがっこう』	➔鳥の劇場［劇場］
13:00	『おじいちゃんのちいさなひみつ』	➔勝谷体育館
13:00	お年寄りによるみんなのための演劇	➔鹿野往来交流館「童里夢」
15:00	公開！小鳥の学校	➔くるびや劇場

「小鳥の家族×鳥の演劇祭11」〜劇場に泊まるキャンプ編〜

➔鳥の劇場

鳥取県八頭町出身、横浜市在住の写真家・水本俊也さんによる写真プロジェクト「小鳥の家族」。鹿野をはじめ鳥取県内の自然の中でさまざまな家族の肖像を写真におさめてきました。今年も演劇祭に合わせて撮影を実施。これと合わせて、劇場周辺にテントを張って星空の下でキャンプを楽しみます。

9月8日(土)・15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)

時間：（集合）受付時にお伝えします　［撮影会］13:00〜17:00　（解散）2日目 8:00　会場：鳥の劇場
料金：大人5,000円／こども18歳未満無料／1家族につき5,000円
　例1）大人1名、こども2名：5,000円×1+5,000円=10,000円
　例2）大人2名、こども1名：5,000円×2+5,000円=15,000円
受付開始：8月1日（水）
定員：各日4組 ※先着順 ※事前申込制
参加資格：「小鳥の家族」写真プロジェクトに賛同いただけるご家族
　作品発表、写真使用に同意いただけるご家族
特典：モノクロ写真（A4サイズ）、ポストカード［各1枚］
申込み・問合せ：小鳥の家族のホームページより https://kotorinokazoku-gekijyou.amebaownd.com

演劇祭の準備期間に、青山学院大学の学生のみなさんが鹿野に滞在し、いろいろなイベントを行います。

青山学院大学 鳥取分室

青山学院大学社会情報学部鳥取分室（鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1407番地）

最近は箱根駅伝の4連覇で有名な青山学院大学、略して「青学（あおがく）」。今年の3月に鳥取県と青学は包括協定を締結しました。そのきっかけのひとつが、鳥の劇場と青山学院大学社会情報学部「苅宿（かりやど）研究室」の交流です。学習環境をデザインするという研究室の活動は、鳥の劇場との学校支援にはじまり、NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会の方々や地域のみなさまのご協力により、鹿野町に研究室の分室をつくるところまで広がっていきました。この分室を拠点に『誰もが話したくなる』場のデザインをし、地域のみなさまや外から来る方々と共に、考えたり、話したり、演じたり、歌ったり、踊ったりできたらと思います。人と人との交流の場としての鳥取分室をよろしくおねがいします。

ショートワークショップ開催決定！　9月2日(日)9:30より各回30分ずつ入れ替え制 全12回
場所：しかの宿　本田中家・しかの心　料金：無料　対象：鹿野学園1年生〜9年生限定

鳥取分室のオープンにともない、ワークショップを開催します。苅宿研究室が開発した、iPadを利用した映像アプリ『ぎゃくてんじかん』『ドリコマ（コマドリアニメ）』『ミラーカメラ』をつかって、たのしい映像作品をつくりませんか。ひとりでつくるのではなく、グループで一緒につくることで、よりおもしろい作品ができあがるよ。

詳しくは https://sites.google.com/view/aogaku-ws-shikano/　もしくは g_oomichi@si.aoyama.ac.jpへお問い合わせください。

若い人たちによる上演

[Performed by Young People]

若い舞台芸術家や勉強している人たちが、作品の発表を通じてお客さんと出会い、他の上演作品とも出会い、それらを通じて一段深く自分の今の表現、そして自分自身にも出会い直す。そういう苗床のような場として、演劇祭が機能するのはとてもいいことだと思っています。11回目の今回から、この役割を演劇祭の重要な柱に加えました。

香港若手振付家2組と八頭高校書道部 with 康本雅子　➔勝谷体育館

アジア・ダンスの芽

Two Young Choreographers from HongKong
Yazu Highscool Calligraphy Club with YASUMOTO Masako　*Bud of Asian Dance*

ダンスのことはJCDNの水野立子さんにお願いしています。「今年は香港フィーチャーで」と、若い人の作品の提案がありました。鳥取からも何かで受けて立ちたいと考え、康本雅子さんに鳥取県立八頭高校と組んでもらうことになりました。ダンス部ではなく、なんと書道部です。

9月8日(土)・9日(日)13:00　料金：大人2,500円／18歳以下500円／小学生無料

『黄ミドリと裏ミドリの乱』

The Battle of Yellow Green and Counter Green

構成・振付：康本雅子
出演：八頭高校書道部（天川結衣　入江玲衣　漆原美佑　大谷愛奏鈴　河上柚香　木下莉那　木本まなみ　小塚さくら　波多野愛佳　姫田心　森木咲耶花　山中菜央　山根愛萌　米井梓）

コンテンポラリーダンス界に常に旋風を巻き起こしてきた振付家・康本雅子さんが、「書道パフォーマンス甲子園」などで活躍し、しなやかで迫力のある動きに定評のある八頭高校書道部の学生と、ダンスの新作をつくります。

康本雅子
ダンサー・振付家 1974年東京都生まれ。これまでに自作品を国内外で発表するほか、演劇やミュージックビデオ、企業のプロモーションビデオの振付けなど、多岐にわたるジャンルにおいて活動する。12年から福岡、15年から京都に移住。小学校での課外授業や様々な世代を対象としたワークショップも多々行う。最新作は子供と親の関係をもとにした作品「子ら子ら」を発表。

photo:Hideto Maezawa

『Along』 *Along*

振付・出演：ヒュー・チョウ
出演：スティーブ・ン　ソームズ・リー　ト・チシン　ロ・チュンチュン　アラン・チェン　アルコン・ウォン　マルコ・チウ

武術家の象徴的な存在ブルース・リーのモノローグと共に、武術とコンテンポラリーダンスを融合させながら、個性的な動きを探求する作品。8人の出演者によるバージョンアップ版を、鳥の演劇祭にて初上演。2017年ダンス・ヨーロッパ紙にて、もっとも素晴らしい作品のひとつに選ばれました。香港ダンス・エクスチェンジ2018参加作品。

ヒュー・チョウ
香港演芸大学卒業後、2010年〜2014、香港のダンスカンパニーUnlock Dancing Plazaに所属し、振付を始める。2012年カンヌ映画祭短編映画部門で上演されたダンスビデオ「Eternal Sunshine」の振付・出演。2015年には短編映画「yellow alert」を監督。2016年、JCDN国際アーティスト・イン・レジデンスの招へいアーティスト。「Made in Hong Kong」がドイツのタンツメッセに招待される。広東オペラのアクロバットも行う。

photo:Cheung Chi Wai

『見えないまま』 *Remain Invisible*

振付・出演：ケイティ・ヤウ

パフォーマンス／ダンサーの体は常に開かれ、見えるものだという定説を逆手に取り、観客とダンサーそれぞれの視界を遮った実験的な作品。頭で考えず、心を空にして、見えないものを見ているその視線の先に、ダンサーの体の存在が浮かびあがります。シニカルな笑いと共に、観客はダンサーの存在と不在の世界を行き来します。香港ダンス・エクスチェンジ2018参加作品。

ケイティ・ヤウ
香港生まれ。2013年、香港演芸大学卒業。コンテンポラリーダンスを専攻。香港のダンスカンパニーY-spaceを経て、現在フリーランス。2016年、イスラエル・ベルティゴカンパニーにてさらなる研鑽を積む。近年の作品「Unmixed」（2017年）では、社会にある規制に焦点を当て、身体と精神の力学を描いた。

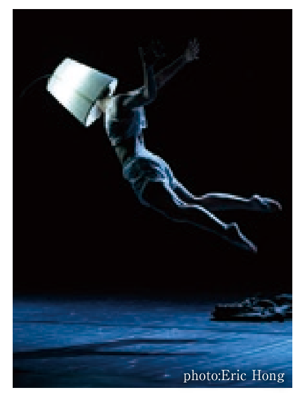


photo:Eric Hong

鳥取の高校生×目黒大路［鳥取］　➔議場劇場

『極東ラブストーリー』

High-school students of Tottori×MEGURO Daiji
Far East Love Story En

高校生が演劇づくりに正面から取り組み、その困難とおもしろさに出会うことが目標の「高校演劇もっと盛り上げ事業」の前期発表公演。いろいろな学校から集まった高校生たちが、舞踏家の目黒大路さんといっしょに作品づくりに取り組みます。社会から排除された若者たちの闘争と恋愛についての物語を高校生がダンス、歌、演技で作り上げます。

9月15日(土)・16日(日)13:00　料金：大人1,500円／18歳以下500円／小学生無料

構成・振付・演出：目黒大路
出演：鳥取の高校生（宇田川真緒　土井理梨　梶川真奈　春名雪乃　岡本菜々華　船越涼花　藤縄耕平　泉明希　中村拓斗　岩本大生　三戸彩世　西井亜美　山本海良　前田恵子）

高校生と作品を創作するというとても魅力的なお話をいただいた。8月に韓国安山市で、9月に鳥の演劇祭で公演するという。韓国公演があるのは、韓国と鳥取の高校生が演劇を通じて交流するという事業であるためだ。この事業の目的を聞いて、作品のテーマを「個と集団」にしようと決めた。両国の高校生に、国や民族という大きな集団を通して人を見るのではなく、まずは、目の前にいるその人自身を見てほしいという願いからだ。個として互いに尊重できる関係を築くこと、それは今後の両国の関係においても、大きな意味を持つことになるだろう。韓国での公演・交流を経て、彼らがどのように変わるのか。その変化は、鳥の演劇祭での公演で表れることと思う。（目黒大路）

目黒大路
舞踏家・振付家。2001年、土方巽記念アスベスト館に入館、元藤燁子に師事。2003年〜2010年、室伏鴻のユニットKo&Edge Co.に立ち上げ時から参加し、世界14カ国、29都市で作品を発表。2010年文化庁新進芸術家海外研修制度研修員。2016年、旅回り一座ゑびす大黒座を立ち上げ、日本の芸能と西洋文化を折衷した大衆的な出し物の興行を行っている。

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）　独立行政法人日本芸術文化振興会

韓国芸術総合学校［韓国］　➔鹿野往来交流館「童里夢」

『主なき土地』

Korea National University of Arts
Land Without A Master Performed in Korean En

韓国の演劇研究者イ・ソンゴンさんとは、劇団ティダとの共同作品『詩の教室』以来、親しく交流しています。ソンゴンさんの所属する韓国芸術総合学校は、ソウルにある韓国初の国立芸術総合大学。その学生の優れた作品を派遣したいとご相談いただき、快諾しました。東京藝術大学には演劇学部が未だないのが残念です、余談ですが。

9月22日(土)・23日(日)16:00　韓国語上演　日本語字幕　料金：大人1,500円／18歳以下500円／小学生無料

作：ファン・ヘチョン　演出：キム・チョホ
出演：イ・ソンフィ　キム・ヘヨン　パク・チャンウク　イム・ホソン　イ・ミンヒョク　他

この作品は海外でマイノリティーとして生きていく韓国人家族の葛藤と連帯を扱っています。父と母は新しい土地に根を下ろすために若い頃に米国に渡って来ましたが、30年が過ぎても依然として韓国的価値観を持っている異邦人として暮らしています。アメリカで生まれた娘や息子は韓国系アメリカ人という二重のアイデンティティの中で悩みながら、その土地で住み着くために孤軍奮闘します。本公演では平凡な家族の内部で起こる対立の振幅を描くことで、「一個人が社会が規定するアイデンティティから離れ、完全なる自分の主人として生きていけるのか」という質問を投げかけたいと思います。

助成：韓国芸術総合学校演劇院演劇創作プラットフォーム事業

シンポジウム

[Symposium]

「生の時間を分かち合う　障がいと舞台芸術」

鳥の劇場では、障がいのある人とない人がともに舞台を作る「じゆう劇場」をプロデュースするなど、演劇を通して新しい共生社会のありかたについての提案を重ねています。また、全国的にも2020年の東京パラリンピックに向けて、障がいのある人の芸術表現が、大きな注目を集めています。舞台芸術の特徴は、同じ時間と場を演者と観客が共有することです。そこで生まれ、やりとりされるものはなんでしょうか。そこにはどんな社会的価値があるのでしょうか。今年の演劇祭では、演劇作品の上演と合わせてシンポジウムを二回に分けて開催し、障がいのある人が参加する舞台芸術の意味、活動を継続し多くの人に楽しんでもらうための方法などを多角的に考えたいと思います。

session 1「外国における実践　アメリカでの事例を中心に考える」

第一週に上演を行うTBTBの芸術監督ニコラス・ヴィセリ氏にご登壇いただき、TBTBのオフブロードウェーでの活動を紹介いただきます。アメリカ・ニューヨークという歴史的、社会的条件の中での活動の成り立ち、変遷を聞くことを通じて、障がいのある人の舞台表現活動の可能性や課題について、新しい角度から考えるきっかけとします。また、アメリカや他の地域での障がいのある人の劇団の活動についても、いくつか代表的な劇団を取り上げて、概要や特徴を語ってもらいます。

9月9日(日)10:30〜12:00　料金：無料　➔鳥の劇場［ホワイエ］

トーカー：ニコラス・ヴィセリ（TBTB芸術監督）　聞き手：中島諒人（鳥の劇場芸術監督）

session 2「日本における実践　舞台芸術を身近なものに」

スローレーベルは「SLOW MOVEMENT」というプロジェクトで、障がいのあるパフォーマーだけでなく、「アクセスコーディネーター（環境を整える人）」と「アカンパニスト（伴奏する人）」の発掘・育成にも取り組んでいます。ビッグ・アイは知的、発達障がい児（者）を対象にした劇場体験プログラムを実施するなど、鑑賞サポートにも力を入れています。両者の取り組みから、舞台芸術に親しむ障がいのある人とない人の割合を社会全体の割合と同様にしていく方法を考えます。

9月15日(土)18:00〜19:30　料金：無料　➔鳥の劇場［ホワイエ］

トーカー：栗栖良依（NPO法人スローレーベル ディレクター）　鈴木京子（国際障害者交流センター ビッグ・アイ　エグゼクティブ・アーツ・プロデューサー）
聞き手：川井田祥子（鳥取大学教授）
主催：鳥取大学地域学部　※本事業は「文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業（文化芸術による社会的包摂の在り方に関する研究）」の一環で実施しています。

コミュニティとともに作った作品

[A Production with the Community]

演劇やダンスを通じて見なれた風景が少し違って見える。よく知った人が新しい顔を見せる。舞台芸術がいろいろな人の生活の中に入り込み、それが媒介となって人や景色を異化する。面倒くさく言うと、そういうことをねらった企画です。楽しいですから、ともかく観てみてください。きっと「なるほどなぁ」と思ってもらえます。

お年寄りの演劇やダンス

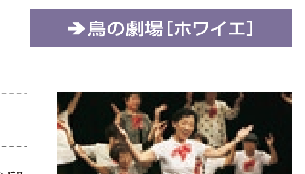
お年寄りと言っても、若々しい活力あふれる方々です。みなさんの語る姿や踊る姿から見えるのは、「老後の余暇」という古いステレオタイプではありません。高齢化、経済の停滞や縮小、豊かさの意味の変化の中、一生の過ごし方の再構築が求められています。年配のみなさんが舞台に立つ姿を通じて、「生きる」と「表現する」のまさに生き生きとしたつながりが見えてきます。

●お年寄りのダンス　9月8日(土)20:00 ※オープニング・パーティー内

➔鳥の劇場［ホワイエ］

料金：1,000円（パーティーへの参加費 ドリンク・軽食付き）

振付：康本雅子　出演：れんげ草



鹿野には活発なお年寄りがたくさんいます。中でも、ダンスサークル「れんげ草」には、ひときわ元気な女性たち8人がそろっています。普段は健康のために自分たちの好きな曲に合わせてダンスを楽しんでおられるみなさんが、今回プロの振付家のもとで、今までにないアップテンポな曲に挑戦します。「お年寄り」「高齢者」のイメージをくつがえすパワフルなステージで、元気を届けます。一緒に盛り上がりましょう。

●「お年寄りのお年寄りによるみんなのための演劇」リーディング上演『瞼の母』

9月17日(月・祝)13:00　料金：無料　➔鹿野往来交流館「童里夢」

原作：長谷川伸　構成・演出：齊藤頼陽　出演：公募で集まったお年寄りの方たち

4年前、6年前と鹿野のおばあちゃまとお芝居を作り、人間が年を重ねていくことの魅力、それを引き出す演劇の可能性を感じて以来、お年寄りの方たちと演劇を創るというこの企画をずっと温めてきました。取り上げる戯曲は、昭和5年に書かれた人情物の名作。昭和、そして“人情”です。つい最近まで、この『瞼の母』の舞台化や映像化が数多くなされてきたことから考えても、時代を越えて私たちの心をつかむ何かがこの作品にはあるのでしょう。この戯曲と共に昭和を生きた方々の力をお借りして、時には笑いも交えながら、魅力の源泉に触れるような時間を作りたいと思います。

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）　独立行政法人日本芸術文化振興会

演劇×子どもラボ

[Theatre × Kids Laboratory]

長い時間をかけて蓄積された演劇という表現は、人間のあたまとからだを刺激する実に多様な知恵を秘めています。このラボ（実験室）では、社会が大きく変わろうとするこの時代・社会状況の中で、その知恵を子どものためにどのように生かすことができるかを、子育てや人の成長という視点で、さまざまな切り口から考えます。

産み育てを考えるワークショップ

➔くるびや劇場

「子育て」をキーワードに、お母さん、お父さんだけでなく、結婚前の10代後半から20代の若い世代や、子育てを終えた世代、つまりテーマに関心のある方ならどなたでも、気持ちをシェアして、結婚、産み、育てのあれこれについてみんなで考える場を作ります。

① 9月7日(金)・8日(土)・9日(日)　② 9月14日(金)・15日(土)・16日(日)・17日(月・祝)（全7回）

時間：10:00〜12:00 & ランチタイム（12:00〜13:00）出入り自由　※ランチタイムの参加は希望者のみです。※途中からでも、1回のみの参加も可能です。
定員：15名程度　※年齢性別不問。お子様連れOK! ※先着順に受付。定員に達し次第、締め切ります。

お申し込み方法：参加希望日／氏名（ふりがな）／住所／電話番号／年齢／お子様の名前・年齢（お子様が同伴の場合のみ）／参加動機、結婚、産み、育てについて考えていることなどを書いて、鳥の劇場までお申し込みください。
申込締切日：①9月1日（土）②9月8日（土）　※定員に達しない回については、当日参加も可。

参加費：200円/1回　進行：阿部初美

阿部初美
演出家。故太田省吾（劇作・演出家）に師事後、演出家として活動。ドキュメンタリー的な作品『アトミック・サバイバー』『エコノミック・ファンタスマゴリア』などを発表。東京藝術大学、（財）地域創造リージョナルシアター事業、各地の公共劇場などでも講師を務める。’10年に出産。現在は子育てしながらワークショップを中心に活動中。

公開！小鳥の学校

➔くるびや劇場

小鳥の学校は、小学校5年生から中学生を対象に、演劇創作を通じて、自分の言葉を作り、体を使い、他者と力を合わせて価値を創造することを学んでもらう人材育成の場です。この日は、台本作りや作品選定を行っています。その現場を公開します。

9月17日(月・祝)15:00　料金：無料

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）　独立行政法人日本芸術文化振興会

おやこ演劇ミーティング

協力：全国小劇場ネットワーク会議　➔くるびや劇場

子どもによい演劇を届けたい、そう願って活動する若手の演劇人が増えています。彼らの短い作品のいろいろを、見本市のように楽しんでいただきます。同時にこの場所は、演劇作品と子どもを仲立ちするグループの人たちが、作り手と情報交換を行う場ともなります。ご興味がおありの方は、情報交換の場にも立ち会っていただくことができます。

1日通し券：大人3,000円／18歳以下1,500円／小学生無料

●『三びきやぎのがらがらどん』　9月22日(土)・23日(日)12:30

➔くるびや劇場

料金：大人500円／18歳以下300円／小学生無料

構成・演出・小道具：柴田智之　音楽：鳥一匹

この作品は、忘れられない絵本のひとつです。訳された方の文章を大切に守りながら、人形や絵本の様な小道具を作成して物語を展開させました。20分間で終えるこの作品に流れている不条理から、命の尊厳を救い出したい。驚いて泣いてしまうような感性で、ご両親に守られながら、怖い、尊い、愛おしい、「いのち」を見つけてほしいです。

柴田智之
大学在学中に演劇と出会い、俳優として活動。演劇だけでなく、音楽、絵画、舞踏など様々な表現活動を行っている。音楽の鳥一匹とはライフワークである一人芝居「寿」を始め様々な場面で創作を共にし、今年は「柴田智之と鳥カゴノ空」として道内童話旅公演「宇宙ベビィ」を各地で上演。

●『舌切り雀』　9月22日(土)・23日(日)13:00

➔くるびや劇場

料金：大人1,000円／18歳以下500円／小学生無料

作：平田オリザ　演出：ロラン・グッドマン　平田オリザ　出演：山内健司

2009年2月の初演以来、山内健司が単身フランス各地を140回以上巡演した子ども向けフランス語一人芝居『舌切り雀』の日本語版です。俳優と戯曲の日本人2名、演出と人形指導のフランス人2名による小さな小さな国際共同制作作品。

山内健司
俳優。1984年より劇団青年団に参加。90年代以降の平田オリザによる「現代口語演劇」作品のほとんどに出演。国内外の演劇・映像作品への参加と同時に、街や人と直接関わる、劇場の外での演劇にも力をいれる。

●『子ゾウのポボンとお月さま』　9月22日(土)・23日(日)14:30

➔くるびや劇場

料金：大人1,000円／18歳以下500円／小学生無料

作・演出：鈴木アツト　出演：劇団印象 −indian elephant−

人間の女の子を好きになった子ゾウの、歌あり笑いありの物語。日本の文楽のテクニックを取り入れた子ゾウの等身大パペットを、三人のパフォーマーたちが時に緻密に時に大胆に操ります。お子様と一緒に楽しめる40分間です。可愛くて、切ない、劇中のオリジナル・ソングにもご期待ください！

劇団印象 −indian elephant−
“印象”と書いて“いんぞう”と読む。2003年旗揚げ。「遊びは国境を越える」という信念の元、“遊び”から生まれるイマジネーションによって、言葉や文化の壁を越えて楽しめる作品を創作している。

●『妖怪屋敷 de 妖怪ショー!!』　9月22日(土)・23日(日)16:00

➔議場劇場

料金：大人1,000円／18歳以下500円／小学生無料

出演：ゑびす大黒座

公演回数100回を超える人気演目「妖怪ショー!!」の第二弾。とある屋敷に、妖怪たちが住み着いた。是が非でも妖怪を退治したい屋敷の主と、可愛くてちょっとコワい妖怪たちのドタバタ大騒動です。

ゑびす大黒座
2016年、舞踏家目黒大路によって立ち上げられた旅回り一座。老若男女問わず楽しめる出し物が好評を博し、様々な地域で巡業公演を行っている。

●『まちなかかみしばい』　9月22日(土)・23日(日)　開演時間：神出鬼没　料金：無料

➔鹿野町内

出演：端田新菜

小豆島の坂手という町でかつて幼稚園だった（その前は小学校だった）場所で眠っていた紙しばい道具をお借りして、紙しばい屋を始めました。

端田新菜
京都市伏見区出身。1977年生まれ。舞台俳優。1997年劇団青年団入団、2011年劇団ままごと加入。2012年出産。子育てと演劇の両立について模索する日々。

photo:Hideaki Hamada

●プレゼンテーションと意見交換会　9月22日(土)20:00　料金：無料

➔くるびや劇場

子どもに演劇を届けるためには、演劇の作り手だけでなく、各地域の子ども劇場などの媒介者が必要です。この場は、両者が集い、それぞれに現状や願い、それから課題を語り、子どものための活動が、双方にとって幸福な形でもっと活性化することを目指します。一般の方の参加も大歓迎です。